住まいは幸せに暮らすためにあるのです。

暮らしのこころ

住まいづくりの目的が変わった現在。
生活者であるエンドユーザーは住まいに何を望んでいるのだろう。
我々が考えるその答えは「幸せな暮らし」。
価値観が多様化した現在で尚且つ定義が曖昧な顧客の幸せ感とはどのようなものなのか。
そこでターゲットとする顧客のニーズや想いを探り、
選ばれる住宅会社になるための住まいづくりを一緒に考えていきましょう。

新シリーズ 「住宅建築家として」

前回は子育てをする場所として住まいを考えたときの「大人とのふれあい」について考えてみた。
住まいを子育ての場として利用している家族も多いと思うので、もう少し住まいと子育ての関係を考えてみたい。
教育者や教育研究者の方々が言っている中で、父親の存在が大きく子育てに影響を与えているというのがある。
「父親の心理学」という本も出ているくらいだ。
最近、TVでも「親父の背中」という連続ドラマを放映している。様々な父親像を描き出し、親子の絆や父親の存在を考えさせられるドラマだと感じているが、自分自身も父親になったころのことを考えると不安でいっぱいであったことを思い出す。
自動車の免許をとってはじめて運転したころのように、なんだか分からないが不安でいっぱいだった。
誰でも、何の資格がなくても父親にはなれる（なりたくてもなれない方もいるが）。

学校で父親教育を受けるわけでもないし、どこかで父親という免許をくれるわけでもない。
つまり父親の準備がなくても子どもができた途端にいつの間にか父親になっているのだ。
動物界では、父親も子育てを本能で実践できているという。人間に近い霊長類や類人猿はまさに本能で父親ができている。
本当は人間も本能で子育てや父親ができるらしいのだが、長い年月、理性や知性を求めてきた人間は、この子育てに対する本能が退化しつつあり、理性で父親を学ばなければ子育てができなくなっているとも言われている。
女性は自分のお腹を痛めて子どもを出産するので、母性が自然と宿る。しかし自分のお腹を痛めない男性は自然と父性が宿るわけではない。
本能が退化し、自分自身で出産しない男性は、そのままでは父親として役割を果たせないのが現状なのではないだろうか。子孫を残すという本能は残っているとしても、この父親という役割が果たせない男性が増え、子育てをせざるを得ない状況になっているとしたらちょっとこわい。
心が子どものまま父親の役割を担わされたとき、まだ精神的な準備ができていない夫が、子どもの虐待に走ってしまう可能性は高い。
信じられないような子どもの虐待事件を聞くと、どうもこんな状況を想像してしまう。

このような状況を住まいがどこまで改善できるのか分からないが、地域も含めた住環境でどうにかならないだろうかと考えてしまう。
小さいころ、女の子はママゴト遊びをやりながら母親の準備をしているのかもしれない。
しかし男の子はママゴト遊びはやらないし、いつまでたっても子どもの心をもった少年でいたいと思っている男性は多い。
マザコンという現象がその象徴なのかもしれないが、母親が男の子の成長に依存し、いつまでたっても自分が居なければこの子（男の子）はダメなんだと思って世話をやいた結果、父親になりきれない男性が増えている。
教育研究者が言うには、父性は小さなときから宿らせていく必要があるらしい。
できれば弟や妹の世話をさせる。ペットを飼う。後輩を持つ。様々なシーンで自分より年下の世話をすることが父性を宿すには必要なのだと。
さらに子どもができた後でも、積極的に子どもの世話をやくことで徐々に父性が養われるともいう。
女性の社会進出にともない、イクメンや夫の家事参加が奨励されているが、実は父性を養う効果にもつながるのでいい現象なのかもしれない。
昭和の時代のように、夫は社会にでて稼ぐことで家族に貢献し、妻は家の中で家事をすることで家族に貢献することが当たり前という時代は終わった。
父性が宿りにくい現在の暮らしぶりを考えると、夫の家事参加、育児参加は子育てにおいていい効果を生む。さらに一人っ子ではなく沢山の兄弟ができることも、父性を養うことにつながる。
だとすれば、夫が家事や育児に参加しやすい仕掛けや、沢山の子どもを生み育てられる環境や、子ども達と一緒に遊べる環境が父親を育て、父性を養う住まいになるだろう。
さらに子どもの成長に依存しなくてもすむ夫との良好な夫婦生活が営める住まいが、マザコンを減らしてくれるかもしれない。

子育ての場として住宅を考えるとき、もう一度、父親の役割や父性について考えてみてはいかがだろう。